

和名：コロラドハムシ
学名：*Leptinotarsa decemlineata* (Say)
英名：Colorado potato beetle



図 コロラドハムシ（成虫）

分布

中国、イラン、トルコ、ロシア、ヨーロッパ、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコ等

寄主植物

あざみ属植物、もうずいか属植物及びなす科植物の生茎葉

形態

成虫は体長約8.5～11.5mmである。頭部、前胸背板及び腹部下面は橙黄色で黒斑を伴う。脚及び小楯板は橙黄色。翅鞘は橙黄色で5本の黒い縦の条線がある。卵は黄色又は淡い橙色で、卵型、長さは約1.2mmである。幼虫の体色は発育と共に変化し、1齢幼虫では光沢のある鮮赤色だが、終齢幼虫では淡い橙色となる。頭部、脚及び前胸後縁は黒色から濃い褐色。第1～第7腹節の両側面に各2個の黒斑がある。頭部両側に6個の単眼を有する。終齢幼虫の体長は約15mm。蛹の体色は黄色。楕円形で尾端が尖る。

生態

年間の発生回数は気温に左右され、年1～4回の発生である。成虫が土中（通常、深さ約7.6～12.7cm）で越冬する。越冬成虫は春から初夏にかけて、数週間にわたって土中から出現し、寄主植物を発見するために歩行または飛翔により分散する。成虫は通常、越冬前に交尾するが、越冬後、春に土中から出現した成虫も繰り返し交尾する。卵は1卵塊あたり10～30個の卵から成る卵塊として寄主植物の葉裏に産卵される。雌成虫は通常、数週間にわたって産卵し、各雌成虫の産卵数は最大で2,000卵である。幼虫は産卵後、4～14日でふ化する。幼虫の発育には、29℃で8日、14℃で28日を必要とする。成熟した4齢幼虫は土中に潜り、蛹化する。蛹期間は気温によるが、通常、8～18日である。

被害

成虫及び幼虫が寄主植物の葉縁を加害し、若い寄主植物の早期落葉を引き起こす。最終的に、寄主植物の茎から全ての葉がなくなる。例外的に、地表から露出した塊茎も加害される。成虫及び幼虫により、特徴的な黒色で粘着性の糞が寄主植物の茎及び葉に排泄される。